



GLOBAL VOLUNTEER

国内 / 海外

グローバルボランティア

2020-2021年度活動報告



RISING
CHIBA UNIVERSITY

skipwise

GLOBAL VOLUNTEERS



グローバルボランティアとは？

「グローバルボランティア」は、普遍教育の教養展開科目「キャリアを育てる」の一科目で、全学の学生に開かれている。国内外のNPO/NGO、施設、国際機関、フィールド等におけるボランティア活動に従事し、「体験から学ぶ」機会を提供している。

2020年度に引き続き、2021年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響により、海外プログラムはすべて中止となってしまった。そのため、国内から「グローバル」を考えることのできる4つのプログラムを夏と冬の2回設定した。夏のクラスでは、「ボランティアとは、人と人の繋がりを築き、どんなことから始められ、共助を当たり前にする、環境も心も豊かになれる活動である」をクラス全体の標語とし、冬のクラスでは、「ボランティアとは、相手への思いやりを実行する行為である」を標語とした。活動中の学生も含め、2021年度は28名の学生が参加した。

授業のねらいは、グローバル社会における課題を発見し、多様な視点から現実社会の理解を深め、その課題と向き合っていくために必要とされる考え方、幅広い教養、実践的な知識を身に着けることである。したがって、ボランティア活動の前に目的意識を高める事前学習の受講を必須としており、活動後も、活動から得た経験知や実践知を再び理論的知識と結びつけたり、再構築したりしながら、自らのキャリアに繋げていくための振り返り（事後学習）を行っていく。さらに、経験を言語化し、他者へ伝える力を育てるための報告書の執筆についても単位修得の条件となる。

これまでの受講学生は、ボランティアとは「自分のできること」をするだけに留まらず、「自分のできることを広げる」ことであり、「成果」よりはむしろ「プロセス」を重視した活動であることを発見した。活動は、今まで知らなかった社会を知り、周囲の人々から大きな刺激を受け成長するための「通過点」になると同時に、自分自身が周囲に対して「インフルエンサー」となる機会にもなる。活動後の学生の歩みは一律ではない。自分の知識や技術の不足を痛感し、自分の専門性について強く意識しながら今後の勉強につなげていこうとする学生もいれば、自分の適性や問題意識の根幹に気がつき、進路を変える学生もいる。

本授業の受講を通し、グローバル社会において自らが取り組むべき課題を定め、自分なりの取り組み方を模索し、今後も向き合っていけるよう、思考し、試行し続ける力をぜひ身につけてほしい。経験を「キャリア」に結びつけるのも、単なる「思い出」として終わらせてしまうのも、自分次第である。

授業のながれ

受講ガイダンス

ボランティア説明会

事前学習

履修必須 ⇒ 1単位

ボランティア活動
50時間程度



事後学習

事後学習後、活動報告書の提出 ⇒ 2単位

03 WHAT IS "GLOBAL VOLUNTEER" ?
グローバルボランティアとは

04 ACTIVITY REPORTS 活動報告
移民コミュニティとの交流 社会福祉法人日本国際社会事業団
2020・2021

06 映像で考える移民・難民 千葉大学学生団体FELiceto
2020・2021

08 フェアトレードちば フェアトレードちば
2020・2021

10 多文化フリースクールちば NPO法人多文化フリースクールちば
2020・2021

12 COLLABORATING ORGANIZATIONS 協力団体
フェアトレードちば / NPO法人多文化フリースクールちば /
社会福祉法人日本国際社会事業団

13 good! / ICYE / NICE

14 "GLOBAL VOLUNTEER" ON THE WORLD MAP
世界地図で見るグローバルボランティア

16 AFTER ACTION REPORTS
2017年度 杉原愛海さん
2017年度 渡邊莉瑚さん

18 2018年度 西沢美樹さん
2019年度 西村 薫さん

20 SYMPOSIUM
座談会

EDITOR'S NOTE
編集後記

国内

移民コミュニティとの交流

国内

移民コミュニティとの交流

ヒラマート (Hira Mart)

〒272-0133 千葉県市川市行徳駅前3-6-1
 ☎047-300-3035
 ・11:00-23:00 (通常)
 ・定休日なし (通常)

ティッカハウス (Tikka House)

〒272-0133 千葉県市川市東成2-7-16
 ☎047-312-5257
 ・11:00-15:00 (L.O.14:30)
 ・17:00-23:00 (L.O.22:30) (通常)
 ・定休日なし (通常)

ボンベイパレス (Bombay Palace)

〒272-0133 千葉県市川市行徳駅前2-1-18
 ☎047-359-4441
 ・11:30-14:30 (土日のみ15:30まで)
 ・17:30-22:30 (L.O.) (通常)
 ・定休日なし (通常)

ケbabハウス (Kebab House)

〒272-0133 千葉県市川市行徳駅前2-25-12中島ビル1F
 ☎047-399-9888 (Translation Phone Service) ☎03-3409-2194
 ・9:00-12:30、15:00-18:00 (通常) (木、土は午前のみ)
 ・休休日 日曜・祝日

まえだ小児科医局 (Maeda Children's Clinic)

先生が日本語も英語も話せるため、言語の心配がなく、ムスリム女性にもやさしい医局です。

行徳駅

このマップについて

このマップは、行徳に住むムスリム女性の暮らしを伝え、人々の交流のきっかけを創出することを目的として、千葉県市川市にある社会福祉法人日本国際社会事業団ISSJの協力を得て作成しました。

マップは、行徳にある様々な施設を、ムスリム女性にわかりやすく紹介しています。また、行徳のコミュニティマップと連携して紹介しています。気になる施設があればぜひチェックしてください。

このマップが、外国にルーツを持つ方々と日本人の交流のきっかけを創出し、行徳に住む人々をつなぐ助けになれば幸いです。

実施協力団体：社会福祉法人 日本国際社会事業団 法政経学部 3年 1さん

行徳駅前公園 (Gyotoku Ekimae Park)

親子でよく遊びに行く公園です。噴水やミニSLがあり、同じ小学校の友達と集って遊んだりもする人気の場所です。

南仲児童交通公園 (Minamiochi Children's Transportation Park)

遊具で遊ぶ広場と交通ルールが学べる広場の2つのエリアがある公園です。親子で交通ルールについて学びながら楽しく遊べます。

行徳スーパー行徳店 (Gyotoku Super The Gyotoku Branch)

大容量で低価格の商品が豊富であることから最近話題になっているスーパーマーケットです。

行徳駅 徒歩2分 アクセスも良く、新鮮な野菜や魚などの食品を購入することができます。

ムスリムが集う拝堂で、朝礼後の交流の場。ムスリムコミュニティの中心になっていきます。

「女性の活動について」

女性のための日本語教室は、日本国際社会事業団 (ISSJ) によって行われている、行徳周辺に住むムスリム女性を対象にした日本語教室です。この日本語教室は、日本語を学ぶ場所だけではなく、ムスリム女性同士のつながり、地域とのつながりを作る場所でもあります。

私たちはグローバルボランティアの活動の一環で、女性のための日本語教室に毎週参加させていた

「女性のための日本語教室」への参加 (9月~10月)

私たちは女性のための日本語教室にオンラインで参加させていただき、ムスリム女性と日本語で身近なトピックについて話した。1ヶ月がたちました。先生としてではなく、同じ目線で接し、ムスリム女性との交流を楽しみました。

私たちが参加することの意義

私たちが女性のための日本語教室に参加することには、私たちにも、ムスリム女性にも意義があります。

私たち (大学生) ↔ ムスリム女性

- ・ムスリム女性の暮らしや文化を知れる
- ・日本語の練習になる
- ・日本の大学生とかかわる数少ない機会になる
- ・日本語学習支援が、なぜ必要とされ、どのように提供されているかわかる
- ・自国の文化や言葉を伝えられる

実施協力団体：社会福祉法人 日本国際社会事業団 伝えられる

病院看板巡りへの参加 (2021.11.2)

11月2日には、「病院看板巡り」というアクティビティが行徳で実施され、普段オンライン日本語で話しているムスリム女性と対面で交流することができました。

病院看板巡りでは、グループに分かれて行徳の様々な病院を巡り、地図に印をつけたり、病院の看板を読んで、ワークシートに情報を書きこんだりしました。

ムスリム女性の中には、漢字や日本語表記の地図が苦手な方もいらっしゃいます。そこで私たちは、漢字表記の病院の情報を、やさしい日本語に直してムスリム女性に伝えたり、地図に印をつけるのをお手伝いしたりしました。

ムスリム女性の暮らしに触れ、福祉関係のお手伝いもできた貴重な経験でした。

実施協力団体：社会福祉法人 日本国際社会事業団 国際教養学部 2年 Kさん

活動内容 千葉県行徳での「ムスリム女性のための日本語教室」にて、会話練習のパートナー女性たちへの聞き取りをもとにコミュニティマップを作成

活動内容 行徳のムスリム女性の暮らしに着目した「コミュニティマップ」の作成、街歩き、ヒラームスク訪問、「ムスリム女性のための日本語教室」への参加など

体験談 コミュニティマップづくりの活動は、外国にルーツをもつ方が多い行徳での、ムスリムへの理解促進を目的として、ムスリム女性が普段利用する場所やそのライフスタイルを紹介するマップを作るという内容でした。まず私たちがその実情を理解するため、またマップに掲載する情報を聞き取るにあたり信頼関係を構築するために、行徳で開催されている「ムスリム女性のための日本語教室」に参加しました。その後のマップ作成作業が難航してしまったため、結果的にはこの日本語教室への参加が2020年度の印象的な活動になったように思います。日本語教室での活動内容は、女性たちと3人ほどのグループになり授業で扱ったフレーズを使って会話するという、日本人には取り組みやすいものでした。しかし、教師の方や女性たちから「普段より沢山練習することができた。大学生と話せて楽しかった」とお言葉をいただき、やりがいを感じました。ボランティアには様々な形がある中で、こうして活動が直接相手の役に立ち、喜んでもらえたとその場で実感できたのは貴重な機会だったと思います。一方で当初の目的であったマップ作成は次年度の方にも引き継ぐことになってしまい、期間の限られた活動の難しさも感じました。

グローバルボランティアでしか学べないこと

事前学習と事後学習があることで、ボランティア活動での学びが何倍にも広がりました。心構えや注意点はもちろん、私の場合は在日外国人の方が直面している問題について事前に学べたことが活動に役立ちました。

この経験をどう活かしたいか？

活動を通して在日外国人の方への興味が深まり、卒論など学習に直接活かすことができました。今後は大学院での研究テーマに活かすだけでなく、ボランティアや就職を通して問題解決に貢献したいです。

体験談 一番メインの活動は「コミュニティマップ」の作成です。このマップは、日本人にムスリム女性の暮らしを伝え、双方の交流のきっかけをつくるという目的で、昨年度から作成していましたが、私は昨年度も活動に参加していたのですが、昨年度の活動ではマップを完成させることができませんでした。私はその反省を活かしたいと思い、マップを完成させたい思いが強かったので、今年度も引き続きこの活動に参加しました。今年度はマップ完成のために実際に行徳へ行き、街歩きとモスク訪問を行いました。活動を通して、行徳の地域性、ムスリムの方々の暮らしや文化に直に触れることができとても刺激的でした。

また、社会福祉法人日本国際社会事業団が行っている、ムスリム女性を対象とした日本語教室にオンラインで参加させていただきました。最初は緊張しましたが、回を重ねるうちにムスリム女性と交流を深められたことが心に残っています。地域の日本語教室の役割についても学べた貴重な経験でした。

日本語教室やモスクの役割についてはマップで特集があります。私たちの活動を知り、地域の多文化共生について考えるきっかけとしてぜひ多くの方に見ていただきたいです！

グローバルボランティアでしか学べないこと

事前学習や事後学習が他のグループと合同で行われるため、他のグループの活動の様子や成果を知ることができます。これにより自分の興味関心が広がるだけでなく、ボランティアについて多角的に捉えられます。

この経験をどう活かしたいか？

日本語教室については活動後も関わらせていただいているので、ムスリムの方々の暮らしやイスラーム文化についての知識、やさしい日本語でのコミュニケーション力を今後さらに活かしていきたいです。



マップの入手はこちらから！

映像で考える移民・難民プログラム

まずはこの動画で知ったことを誰かに伝えてほしいな

硬い話が多いから普段の話題に出すのは難しいかもしれないけど、気になった言葉をインターネットで調べてみるだけでも新しい発見がたりするよね

大学生と考える

日本で暮らす移民との関わり

実施協力団体：千葉大学学生団体FELiceto、社会福祉法人 日本国際社会事業団 法政経学部 1年 Sさん



実施協力団体：千葉大学学生団体FELiceto 法政経学部 3年 Iさん
国際教養学部 1年 Oさん

活動内容 移民や難民について多くの人に関心をもってもらうために、移民や難民に関するオンラインイベントの開催・動画の作成をしました。

活動内容 移民・難民に関する映画の上映会の企画を通じて移民や難民を取り巻く課題について参加者に示し、解決策を共に考えていきます。

体験談 私は大学入学後、コロナ禍で移動できない時に、地元で在日外国人に無料で医療相談会を行なっている1人の医師にお会いしたことを機に、移民や難民に深く興味関心を持ちました。それまで彼らは遠い存在で、1つの社会問題だという印象があるだけでした。しかしグローバルボランティアを通して彼らのことを知り、アプローチをする中でかなり身近な存在となりました。

「移民・難民」とは、という話から始まり、彼らをより身近な存在に感じてもらうため、日本の移民・難民に焦点を当て、社会福祉法人日本国際社会事業団のスタッフの方と千葉大学の学生で日本における生活支援、私たちに何ができるのかをオンラインイベントを通じて考えました。まとめた動画がYouTubeにアップされているので是非ご覧ください。

多くの日本に住む人たちにとって一般的に移民や難民は身近ではなく、彼らのことを知らなくても何不自由なく生きていけるかもしれません。しかし彼らの多くは日本国内で生活する上で様々な問題に直面しており、その中でも日本に住む人たちと共生しようと日々奮闘しています。そのような人たちが日本にいる、ということを知ることが社会の見え方も変わってくるのではないかと感じました。

グローバルボランティアでしか学べないこと

この授業では「ボランティア」とは何か、私たち学生ができることは何かを主体的に考え、実践し形にしていくことで、実社会と関わりながら、相互扶助の影響力の大きさや大切さを学ぶことができます。

この経験をどう活かしたいか？

この授業が起点となって得ることができた人との繋がりが移民や難民に関する活動は現在も続いているので、より多くの人々がボランティアや移民・難民を身近に感じてもらえるように伝え続けていきます。

体験談 私は技能実習制度や難民問題について興味を持っていたため、様々な活動内容を持つグローバルボランティアの中でもそれらの課題について映画という手段で発信する「映像で考える移民・難民」のプロジェクトに参加しました。そこでの主な活動内容として、難民に関する映画の上映会の主催やその事前段階として移民や難民に関する知識をつける勉強会の開催、茨城県牛久市の東日本入国管理センターへの訪問などを行いました。

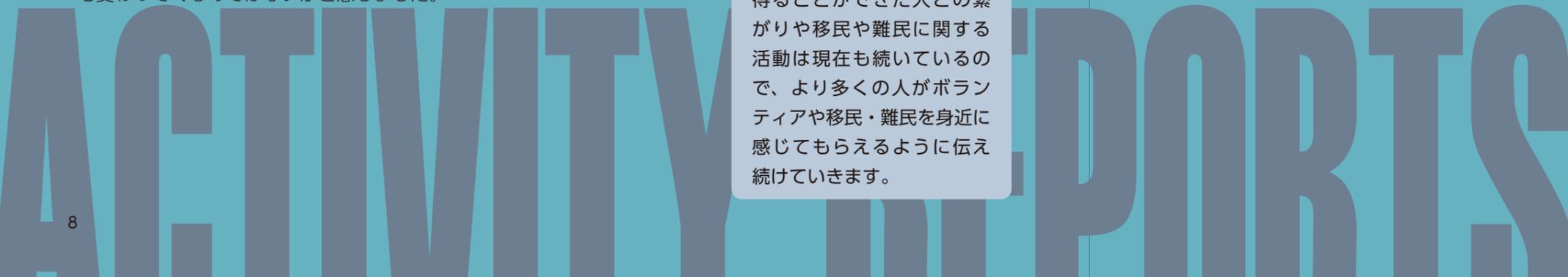
日本においても在留外国人の人数は増加傾向にありますが、未だ移民や難民の存在に関しては自分には遠いものとして受け止められている傾向が見られます。しかし、実際には私たちの周りにも移民や難民と定義される方々は多く存在し、生活のあらゆる側面で様々な困難を抱えているということを知り、この活動を通じて以前より深く実感できたように思います。映像という媒体はそうした現状認識の段階において移民や難民の存在を観ている人に深く印象付ける力を持っており、これを元にして私たちはどのような行動を起こしていけばいいのかを提示していくことが、この「映像で考える移民・難民」プロジェクトに携わるボランティアの役目なのではないかと私は考えています。

グローバルボランティアでしか学べないこと

事前学習を通じて移民や難民に関する基礎知識を得たうえでその知識を用いて実際に大きなプロジェクトを運用するため、自分の学びが実際の活動に応用できているという充実感や達成感を得ることができます。

この経験をどう活かしたいか？

今回の活動から国際移動が活発になる現在でより高まっている移民や難民の現状を発信していくことの重要性を実感したため、今後もそうした移民・難民に関する啓発活動に携わっていかれたらと思っています。





フェアトレードちば

実施協力団体: フェアトレードちば 国際教養学部 1年 Sさん

活動内容 フェアトレードフェスタちばをはじめとする企画・運営・広報を通じて、フェアトレードへの理解を深めます。

体験談 フェアトレード（以下FT）のボランティアと聞くと、貧しい国の生産者のために何かするというように、身近なイメージを持つことが難しいかもしれません。私も初めはそうでしたがボランティアを続けている中で、直接的に弱い立場の人々を支援することができなくても、間接的に支援することができるということがわかりました。フィリピンでは貧困地域の女性たちがマニラの廃材を使ったバックやポーチなど、バングラデシュでは現地の材料と現地の人の手作業で作られたペンやタワシなどを作っています。ボランティアでは、その支援を主導しているちばの事業者さんたちと繋がり、ともにFTフェスタちばを盛り上げていきました。また、FT団体をホームページで情報発信するため、インタビューをして記事を作成する経験もしました。フィリピンやバングラデシュだけではなく、千葉の地域のFT店や社会福祉施設と繋がること、ローカルフェアトレードやウェルフェアトレードという、新しい見方のFTを知ることができました。その中で、地域の人々に少しでもFTを理解してもらうだけでなく、自らの理解が深まり、自分が買い物をする際はついフェアトレード認証マークを気にするようになりました。

グローバルボランティアでしか学べないこと

同じ千葉大で似たような関心をもった受講者たちとどのように協働することができるか考え、コミュニケーションの取り方を工夫するといった通常の授業と少し異なる学びを得ることができます。

この経験をどう活かしたいか？

FTへの理解を深めた人として暮らしの中でサスティナブルとは何か考えて買い物をしたいです。また、格差拡大や継続困難といったFTが抱える課題を今後の授業や研究でさらに掘り下げていければと思います。



フェアトレードを知っていますか。

あなたの買い物が世界をかえる

フェアトレードとは、開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す「貿易のしくみ」です。

千葉大学グローバルボランティア
グローバルボランティア1 (国内)
(担当:佐々木綾子先生)

活動内容 千葉のフェアトレードショップマップづくりをし、大学内でSNS・ポスター・映画鑑賞会班での各活動を行いました。

体験談 1つ目の活動は、フェアトレードちばとの千葉市周辺フェアトレードショップのマップ作りへの参加でした。今頃はコロナ禍で、フィールドワークを伴う調査が中々できなかったため、オンラインショップをネットで探す等、工夫のいる活動でした。個人タスク的な活動がどうしても多く、モチベーションを保つのが難しかったと感じました。この活動後多くのメンバーが、自分達でより主体的に活動し成果を目に見える形で出したいと思い、先生にフェアトレード勉強会を開いていただきました。その中で、ファストファッションに関する映画を見ました。そこで初めて、マップ作りでは知らなかった世界で起こっている現実を目の当たりにし衝撃を受けました。そこで知った現実を広く啓発したいと思い、2つ目の活動でSNS広報活動・ポスター作成による啓発活動・映画鑑賞会開催の3つの班に分かれての活動を始めました。私は映画鑑賞会班で活動しました。当日の開催までに何度もオンライン会議をし進捗確認をしたり、他班にも広報として参加してもらう等、全体を巻き込みながらの活動をするよう心がけました。当日は50人程の方に参加いただき、自分達で1つの活動を作り上げられた達成感を得られました。

グローバルボランティアでしか学べないこと

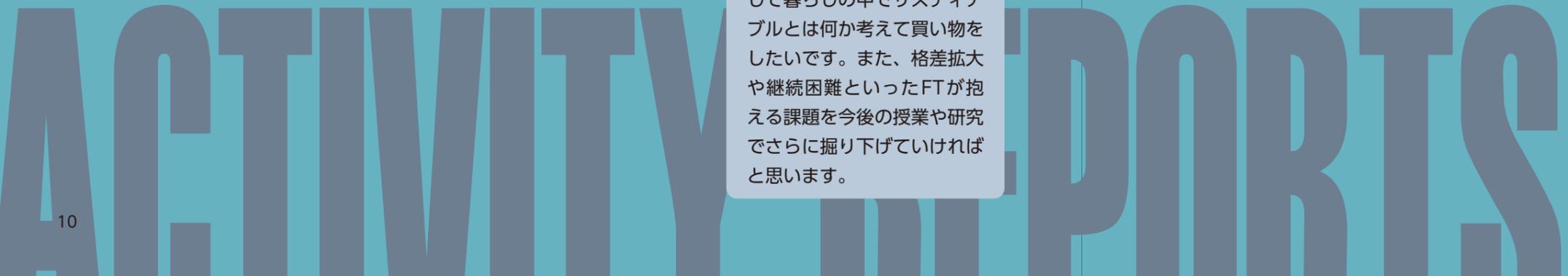
自分たちの力で1つの活動をやりきったときに得られる達成感は、他では味わえません。他の活動では、実際に自分たちで企画を考え、それを実行し、成果を得るという過程までは中々学べないと思います。

この経験をどう活かしたいか？

私は将来教員になりたいです。子どもたちにフェアトレードの現実を伝え、一人一人には何ができるのかを考えさせることのできる授業を組み立て、記憶に残していくことで活かしていきたいです。

千葉大生主催！
フェアトレード映画観賞会

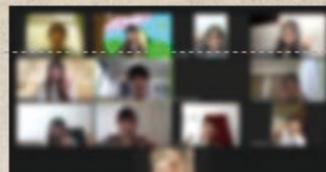
実施協力団体: フェアトレードちば 教育学部 1年 Yさん





多文化フリースクールちば

- 頻度：週末1回、1時間程度
- 内容：主に数学、雑談
(数学は入試第1問の計算問題メイン)
- 人数：大学生 10名程度
生徒 10名程度



3. 活動を通して得たもの

フリースクールの必要性実感

「難しい日本語」の概念理解

相手のニーズをくみ取る姿勢



実施協力団体：NPO法人多文化フリースクールちば



教育学部 2年 Sさん

活動内容

3. 進路ガイダンスのお手伝い(10/10)

外国にルーツを持つ子どもたちとその保護者を対象としたもの
日本の高校に進学するための情報共有の場に参加
学習支援のマッチング相手とも会うことができた
⇒ 多言語のパンフレットや通訳の方がいたり、日本の高校に進学したいと考えている子どもたちが多くいることを実感

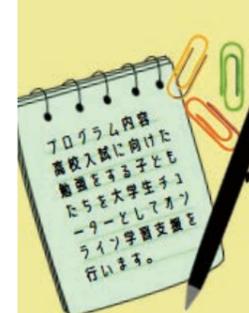


活動内容

2. 学習支援(10/1~10/31)

千葉大生一人当たり1~2人の生徒さんと学習支援を行った
科目は漢字、日本語、数学の3つから生徒さんが希望するものを教えた
日時等の連絡はInstagramを利用
⇒ 学習にはホワイトボードを使うなどオンラインでもわかりやすいものになるよう工夫

実施協力団体：NPO法人多文化フリースクールちば



近年、外国にルーツのある子どもたちの中でも母国の中学校を卒業して来日した子どもや、日本語レベルなどにより高校進学を延期した子どもが増加しています。「多文化フリースクールちば」では彼らの居場所づくり、高校進学へのサポートを目的として設立されました。基礎的な日本語をはじめ、英語や数学、さらに作文や面接なども加えた授業を実施しています。

活動時期：8月~9月末
活動内容：スクール生、不登校生へのオンライン学習支援(チューター)
募集人数：10人程度

国際教養学部 1年 Kさん

活動内容

コロナ禍であったためオンラインで勉強(主に数学)を教えたり、面接や高校生活に向けて日本語での会話の練習を行いました。

体験談

私はこのボランティアを通じて伝えることの難しさを学びました。本来なら対面で活動できましたが、オンラインであったためより難しかったと感じています。対面であれば伝わらなかったときにもすぐに文字や絵などをかいたり、ジェスチャーをするなど視覚的な情報にして伝えることができます。しかしオンラインではこれらの方法はなかなかうまく使うことができませんでした。そのため対面で伝えるときよりもさらに分かりやすい日本語を使うこと、ゆっくり話すことなど相手に伝わるように話すという意識が高くなりました。数学を教えているときには数学の専門用語が伝わらずに苦労しました。その時は相手が普段使っている言語ではどう言うのかを調べて伝えるなど目の前の相手や状況に合った伝え方も考えることができました。

また私はこのボランティアをするまで日本や外国で義務教育を修了しているものの日本語の力が足りていないために高校に進学することのできない外国にルーツをもつ子どもが日本にいることを知りませんでした。教育学部で勉強する学生として、このような子どもに対する公教育の仕組みができるだけ早く整えられてほしいなと思いました。

グローバルボランティアでしか学べないこと

ただボランティアとして活動するだけでなく、事前事後学習を通して本質的な課題を理解し、それを考えながら活動できるため、その課題に対する当事者や支援する人の気持ちを知り、支援の必要性を学べること。

この経験をどう活かしたいか?

私は教師になることを目指しています。志望する地域は外国籍児童生徒等は多いものの、そのような子どもを支援する大人が足りていない現状があります。教員として経験を活かし、支援していきたいです。

活動内容

多文化フリースクールちばの生徒さんとZoomを利用したオンラインでの学習支援を行いました。

体験談

今回私は二人の生徒さんと学習支援を行いました。先生と生徒のような関係ではなく、友達同士のような関係となることを目標としました。二人の希望により、日本語を話す練習として、日常会話やお互いの国のことについて話しました。勉強会のなかで印象に残ったことは、「日本は安全ですね」と言われたことです。物騒なニュースが連日報道されることもあり、最初はこの発言に疑問を感じていました。しかし、生徒さんの出身国では、通学路であっても子供が一人で道を歩くことはめったにないという話を聞き納得することができました。日本では、小学一年生が一人で学校へ向かうことは珍しくありません。このような当たり前であると思っていることも国によって様々なのだと気づくことができました。今回のボランティアは外国のことを知ることはもちろん、自分の世界に対する知識のなさを実感し、日本という国について考え直すよい機会となりました。グローバル社会で活躍できるよう、より多くの知識を深め、たくさんの人と関わりながら世界のことを学んでいきたいと思っています。

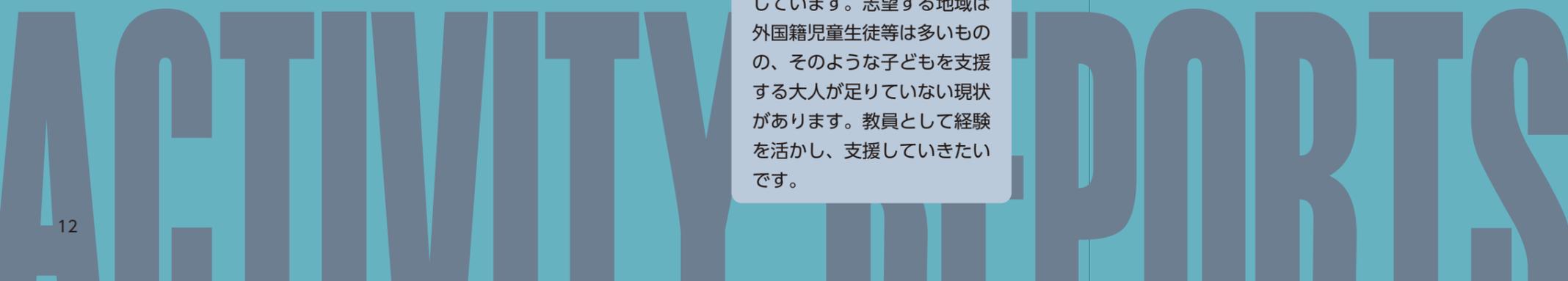
グローバルボランティアでしか学べないこと

外国にルーツを持つ人々と関わることの楽しさです。日本にいながら、外国のことを知り、実際に関係を持てるといのはグローバルボランティアならではの経験だと思います。

この経験をどう活かしたいか?

活動で日本で生活する外国にルーツを持つ人々と交流することができました。

日本という国のことを考える際に彼らの存在を忘れることなく生活していきたいです。



FAIR TRADE CHIBA

フェアトレード ちば

団体概要と主な活動内容

フェアトレードちばは、千葉県からフェアトレードのあるライフスタイルを啓発していくことを目的に、催事や勉強会の開催、ネットワーク化などを行っています。主な活動内容として、

毎年5月のフェアトレード月間に、千葉県内のフェアトレード団体と啓発イベントを開催しています。コロナ禍においては、オンラインと対面の両方で活動しています。また、勉強会などの開催、フェアトレード団体のリスト化などにも挑戦しています。

メッセージ

月2回の会議は現在オンラインZoomで開催しています。“千葉県にフェアトレードを広げる”目的のもと、一人一人が挑戦しそれを支え合うチーム作りにも協力ください。Googleオンラインツールでの書類の共有や共同編集、SNSを活用した広報などに不安がなく、パソコンと安定したインターネット環境があることが条件となります。一緒に楽しくフェアトレードを千葉から広げましょう！



団体概要と主な活動内容

本スクールは、2014年に設立しました。その目的は、母国や日本の中学校を卒業しているにもかかわらず、日本語が十分でないために進学できなかった外国につながる生徒を、高校につなげようというものです。これまで180名ほどの生徒が参加し、帰国や転居したもの以外の殆どの生徒を実際に高校に進学させています。

ただ、1年間の授業で入試に合格でき、高校の授業についていける日本語を身に付けさせるのは大変です。そのため、年間約220日、1日4時間の授業を行っています。また、親の都合による来日とバラバラの来日時期、アルバイトの必要がある家庭などさまざまな困難を彼らは抱えています。そのため、細かいところまで気を配れるように少人数のクラスを作り、生徒に寄り添って指導しています。

メッセージ

本スクールの問題点の一つは、「閉鎖集団」になるということです。生徒たちは仲間内ですぐに仲良くなりますが、それが日本人や日本社会とのつながりとはならないのです。学生の皆さんに継続的な日本語学習を指導してもらうことは難しいとは思いますが、閉鎖的になる生徒たちへ日本人や日本社会との「窓口」になって欲しいと思います。この間、千葉大学生と行っている「佐倉ツアー」などはその典型だと思っています。



団体概要と主な活動内容

社会福祉法人日本国際社会事業団 (ISSJ) は、日本に暮らす外国籍の人々、とりわけ女性や子どもが自信と希望をもって日本社会で生きていけるよう、ソーシャルワークを実践しています。

60年以上にわたり、時代や社会の変化に応じて、その内容を少しずつ変容させながらも、複数の国・文化・言語にまたがって生きる人々のニーズに寄り添い、様々な活動を展開し続けてきました。現在の主な活動は、移住者家族への生活支援とコミュニティのエンパワメント、子どもの国籍取得支援、養子縁組とルーツ探し支援です。

2017年より、移住者コミュニティ支援の一環として「ムスリム女性のための日本語教室」をいくつかの地域で実施しています。コロナ禍でも、女性たちが孤立を深めることのないよう、工夫を重ねながら活動を続けています。

メッセージ

近年、日本国内でも、色とりどりのスカーフに身を包んだムスリム女性の姿を目にすることが増えました。それでも、彼女たち一人ひとりがどんな思いを抱きながら、どんな風に、文化も習慣も言語も異なる日本で生活しているかを知る機会は多くありません。

大学生には、日本語教室や課外活動への参加を通して、彼女たちの生活を知り、その想いやユニークさを感じていただければと思っています。



団体概要と主な活動内容

NPO法人グッドは、ワークキャンプという合宿型のボランティアを通じて、すべての若者のきっかけ作りを応援している団体です。スリランカの農村でホームステイをしながら井戸を掘ったり、タイの山岳少数民族の村で道路づくりをしたり、日本の田舎で農業のお手伝いをし

たりしています。課題のある地域に足を運び、現地のために働くことや、そこに暮らす人々と交流することを通して、地域の実際の姿やその場所が抱える社会問題を肌で感じることが出来ます。

活動には、大学生を中心に高校生～社会人まで、全国各地から幅広い年齢層の参加者が集まっています。学外の人たちとの関わりを通して、視野が広がり、研究の新しい視点を得ることが出来るはずです。

現在はワークキャンプの実施が難しいため、万全の感染症対策を行う国立の青少年施設にて、全国から集まる大学生たちと交流したり、ボランティアについて学んだりする宿泊型のプログラムを開催しています。

メッセージ

コロナ禍で思い描いていたキャンパスライフを過ごせていない人も多いのではないのでしょうか。そんな人こそ、ぜひ私たちのプログラムにご参加ください。海外ボランティアの話や全国から集まる同世代との出会いは、大学生活の良い刺激になるはず。プログラム中は、全日程スタッフが引率しますので、一人での参加でも、初めてでも大丈夫。せっかくの大学生活、動いた分だけ世界は広がります。勇気を出して新しい一歩を踏み出してみませんか？



団体概要と主な活動内容

ICYE (International Cultural Youth Exchange) は1949年終戦直後、対立していたアメリカとドイツの間で、青年の交換事業・奉仕活動を通して互いの文化を学び、理解を深め合う事で平和を構築していくというビジョンのもと発足しました。今日まで70年以上続く歴史ある団体です。

1週間～の国際ワークキャンプ、長期休みに参加できるサンフランシスコ教育・福祉、ベトナム児童福祉、インドネシア日本語教育プログラム、4週間～1年間の期間が選べる約70ヶ国での国際ボランティアプログラムをアジア・アフリカ・中南米・ヨーロッパの受入パートナーと共に運営しています。国内でも各地で来日生入事業を行い、世界中の青年の国際的な学びのプラットフォームとしての役割を担っています。

メッセージ

活動先での「温度」「匂い」「音」街を歩きながら、現地の人との会話、生活の中で感じる「雰囲気」「色」「質感」それらは異文化理解において重要な側面を持っています。どんなに巧みな言葉でも、現地で感じる、言葉にならないほどの多様で大きな世界を説明することはできません。皆さんの中の「挑戦したい！」気持ちを近い将来、その情熱を爆発させることができるよう、褪せさせることなく大切に温めておいて欲しいと思います。



団体概要と主な活動内容

世界90ヶ国3,000の国際ボランティアを紹介！
グローバルな仲間とローカルな課題に取り組みます！

活動は身近な地域の課題から、世界各地の課題まで

- *生活様式の変化で、動植物が住めない日本の里山
- *気候変動で減っているインドネシアのマングローブ林
- *母国を逃れベルギーの施設で一時滞在する移民や難民
- *田んぼや畑の手入れができない人口2人の限界集落
- *様々な事情で教育を受けられないタンザニアの子ども

近くは韓国、台湾から、遠くは南アフリカ、ペルーまで世界各地から集まる仲間と共に活動します。話す言葉も習慣や文化も違う中、食事も基本は共同作業自炊です。

メッセージ

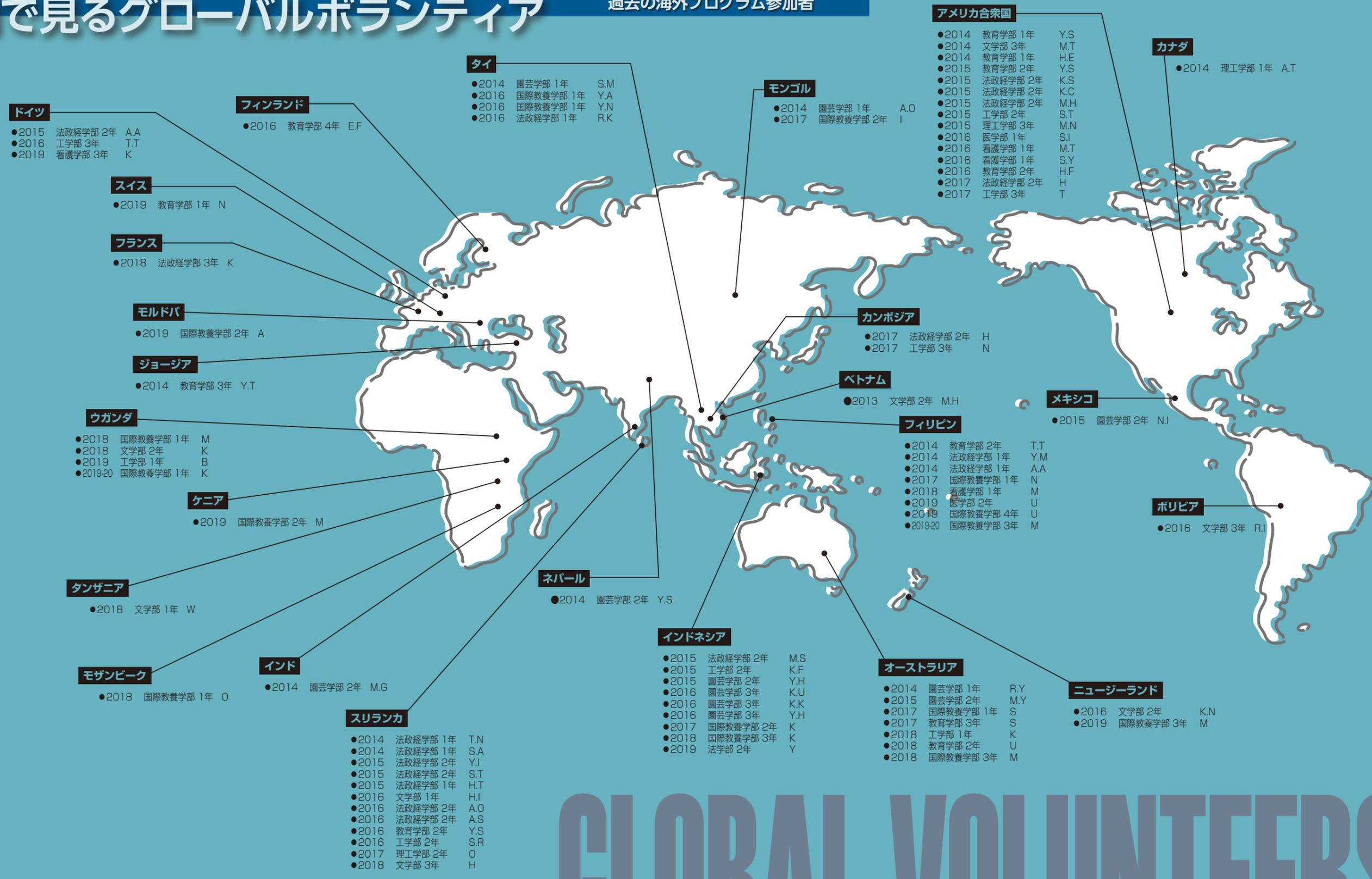
出身や肌の色、宗教、障がいなど、どんな違いも価値観も最初は「知らないしよく分からない」もの。国際ボランティア活動を通して、それらを「友達の個性、仲間の宗教」と捉えられるようになるだけで、このグローバルな世界を優しく生き抜く手助けになるかもしれません。さらには、地球に暮らす生物や自然環境のことも考えられる世界。そんな「カラフルでヘルシーな世の中」を国際ボランティアを通して、一緒に作りませんか？



GLOBAL VOLUNTEER ON THE WORLD MAP 2013-2020

世界地図で見るグローバルボランティア

PAST PARTICIPANTS 過去の海外プログラム参加者



プログラム名、派遣地、年度を地図に記載
詳細は佐々木先生研究室の紙媒体でお読みいただけます

GLOBAL VOLUNTEERS

きっかけ

私が難民支援ボランティアに参加したきっかけは特別なものではありませんでした。私は大学入学前から様々な国際課題に興味がありましたが、グローバルボランティアに参加する前は特定の課題に関心があるわけではなく、授業を取る前は、こういう活動がしたいとかここに行きたいという強い思いも正直ありませんでした。しかし、ボランティア候補の中に「難民」という文字を見た時、聞いたことあるけどよくわからない、でも知るべき存在だと直感的に感じ、また活動内容に惹かれてこのボランティアを選びました。



参加

当時の活動内容は、千葉大学内での「難民映画祭」開催と「難民の故郷の味」を大学祭で販売する「Meal for Refugees」という活動の二つでした。「難民映画祭」では「シリアに生まれて」というドキュメンタリー映画と専門家による講演会を行いました。大学祭では、クルド料理のイチリキョフテ、パキスタンのパンプディングを出品し、売上は難民支援協会へ寄付させていただきました。私はこの中でも主に大学祭での活動を担当しており、料理の選定、出店の準備、材料の調達など出店に関わるほとんど全ての事をメンバーと協力して行い、大変でしたがとても楽しかったのを覚えています。

参加後

グローバルに参加した1年生の終わりに、もっと難民に関する活動を続け拡大させたいという思いから、友人とともにFELicetoという学生団体を立ち上げました。その学生団体では、毎年の「難民映画祭」や「大学祭」での活動をより多くの人に影響を与えられるように工夫したり、世界難民の日に合わせてパネルディスカッションや難民の故郷の味と一緒に作るイベントなどを行ったり、さまざまな活動をメンバーと共に行いました。今は後輩がその活動を続けてくれています。それ以外には、タイ留学、長期インターン、難民の子供への学習支援ボランティアなどの活動を行いました。現在は、タイの大学院に通っています。



杉原愛海さん

PROFILE

参加時期：2017年度・1年生
プログラム：難民支援ボランティア

TURNING POINT 1
1年夏
難民支援ボランティア授業の一環で気軽に参加しましたが、その後の大学生活や現在の大学院、さらに将来の選択に大きな影響を与えてくれた活動です。

TURNING POINT 2
1年春
学生団体FELiceto立ち上げ難民支援ボランティアをきっかけに、友人と共に最初は5人ほどで立ち上げて、卒業までの4年間すごく色々な事がありました。私の人生に大きな影響を与えてくれた活動です。

TURNING POINT 3
2年夏～冬
タイ派遣留学
グローバルとは別に派遣留学にも挑戦しました。バンコクのスラムでのボランティア活動が特に印象に残っています。この留学がなければ、今私はタイにいることはなかったと思います。

TURNING POINT 4
3年冬
大学祭・映画祭
学生団体FELicetoでの3度目の大学祭・映画祭で、初めて自らリーダーシップを取り、イベントを作り上げました。メンバーと意見が合わず対立したり、ゼミやインターンシップとの両立に悩んだりしましたが、今振り返ると一番充実していた活動の一つです。

TURNING POINT 5
4年春～冬
学習支援ボランティア
社会福祉法人 日本国際社会事業団 (ISSJ) という団体の元、コロナ禍で家庭学習を強いられた小学生にオンラインで学習支援をするというものでした。この団体との関わりによって、自分の社会福祉やエンパワメント、人権などへの関心が高まりました。

現在
Asian Institute of Technology 修士1年
タイにある国際大学院のジェンダーと開発コースにて勉強しています。グローバル、学生団体、インターン、ボランティア、授業など千葉大学時代のたくさんの経験が今の学びにとても良い影響を与えてくれていると感じています。

グローバルがきっかけで大学生活が一変しました



渡邊莉瑚さん

PROFILE

参加時期：2017年度・1年生
プログラム：ICYEタンザニア

TURNING POINT 1
1年夏
ICYE
国内ボランティア 2週間
2017年度 1年生

TURNING POINT 2
1年春
NICE
海外ボランティア (タンザニア) 2ヶ月
2017年度 1年生

参加

国内ボランティアは海外からボランティアをするために来日した方たちに日本語や文化を教えるボランティアをしました。タンザニアでは1ヶ月半滞在し、保育園に通う子どもたちに英語や算数、スポーツを教えました。レソトでは国際交流という側面が大きく、レソトの大学に行ってレソトの大学生たちと一緒に授業を受けたり、村で1週間生活したりしました。フィリピンではスラムの子どもたちにスポーツを教えるボランティアをしたり、子どもたちに使い捨てカメラをわたして写真を撮るアクティビティをやったりしました。

参加後

大学3年で渡航した時に会ったレソト人と2つのプロジェクトを行っています。プロジェクト先はハ・セカンツィという山間部に位置する村で、ここでコミュニティ・ラーニング・センターの建設を行っています。この村には学校も病院もないので、施設建設後に子どもたちが村の中にある学校に通えるようになったり、大人たちがスキルトレーニングを受けられたり、出張医療を提供したりする予定です。もう一つはカメラを使った教育プロジェクトを行っています。子どもたちにカメラをわたして、子どもたちが写真を撮ることによって新しい発見や視点を見つけることを目指します。また、日本とレソトの写真を交換して写真を使った国際交流も行っています。

TURNING POINT 3
3年夏
レソト王国渡航
2019年度 3年生

TURNING POINT 4
3年春
Seven Spirit
海外ボランティア (フィリピン) 2ヶ月
2019年度 3年生

現在
休学2年目
昨年プロジェクトのためにクラウドファンディングを行う。
今年の4月からレソトで教育プロジェクトを行う。

きっかけ

私がフェアトレードに出会ったのは、1年次に参加したボランティアの説明会です。

入学時の私は明確な学びの目標が定まらず、大学生活でそれを見つけないと悩んでいました。そして「国際協力ってかっこいいな」という漠然とした憧れから説明会に参加し、途上国と先進国が対等な立場で課題解決を目指すフェアトレードの仕組みに関心を持って、もっと知りたい、と思いエントリーしました。当時は「SDGs」のような言葉も知りませんでしたが、この参加が今の学びの土台となっているので、ちょっとした好奇心や出会いも大切に思うものだなと思います。

参加

フェアトレードに関するイベントの企画や広報を行いました。

発信をしてもなかなか関心を示してもらえない、などの課題もありましたが、その中で自分に何ができるのか試行錯誤しながら考えを実践し、その過程で多くの人の様々な価値観にもふれられたことで、視野が広がっていききました。また自分たちの活動が現地でどう活かされるか知るためにフィリピンの事業地を訪問したり、より多くの人に認知してもらうために大学祭で出店したり…と、主体的に行動することで新たな出会いや気づきがあり、学びの方向性も定まっていきました。

参加後

活動を通じてエシカル消費（人や環境に配慮した消費）と体験が価値観に与える影響に関心をもち、持続可能な消費の促進について勉強してきました。現在はこれらをテーマとしてイギリスに留学し、フェアトレードの発信を行うNPOや観光協会でのボランティア活動を通じて、現地の取り組みや価値観の背景について勉強しています。今の学びの方向性はフェアトレードちばの活動を通じて得た価値観や人との繋がりに基づいていて、グローバルボランティアでの経験が自身の学びの軸となっています。



西沢美樹さん

PROFILE

参加時期：2018年度・1年生
プログラム：フェアトレードちば

TURNING POINT 1

1年 夏～春

5月：説明会に参加。フェアトレードに出会って関心を持ち、「フェアトレードちば」への参加を決める
10月：ボランティア開始
12月：千葉大学近くでセミナーを開催
3月：フィリピン訪問。現地でフェアトレードによる良い変化と現状の課題を知る

TURNING POINT 2

2年 夏～春

4月：大学で啓発イベント開催
5月：フェアトレードフェスタちば2019運営、ボランティア履修終了
9月：大学のGSP（グローバルスタディプログラム）で観光について学ぶ
11月：大学祭でフェアトレードショップを出店

TURNING POINT 3

3年 冬

1月～：サステナビリティやエシカル消費に関するメディアのライターとして活動

TURNING POINT 4

4年 秋

9月～現在：イギリスへ交換留学

スイスから始まった人生の旅と今のわたし



きっかけ

入学のときに4年間の目標として「世界中の子どもたちに会いに行く」ことを決めていました。より現地の方と密接に関わることができるボランティアでの渡航を決め、団体や複数人でのプログラムよりもひとりで行くことが学びを最大化する重要な要素だと思い、敢えてひとりを選択しました。子どもたちに会うという視点で日本より優れた教育の国に行きたいとスイスを選びました。渡航を決めてからは、現地での発見や気づきを見逃さないようにスイスに対する固定概念やイメージをあえて明確化するようにして準備をしていました。当時の私の中でも大きな挑戦だったと思います。

参加

スイスの小さな村で子どもたちが言語を学ぶサマースクールの補助という立場で参加しました。スイスの子どもたち30名ほどが、それぞれ英語、ドイツ語、フランス語のコースに分かれて午前中は学習をし、午後は楽しいアクティビティをする毎日でした。敬語のない日本とは違う環境で大人と子どもが対等に言葉を交わし、子どもたちが責任を持って自分の意見を発していることに驚きました。そして、ルールのない世界で自分の意思を持って行動することの難しさを知りました。「自由」な空間で行動できる子どもたちのすごさと、ルールを守らせることで本来の力を奪っている日本の教育に気づいた3週間でした。

参加後

「自由」な空間から育まれる自主性や主体性に気づき、それを実現できる場を創ろうと「プレーパーク」を立ち上げました。「禁止事項なしの自由な遊び場」において自分の頭で考えて何も制限されることなく挑戦し、失敗できる。そんな遊びの空間を子どもたちと一緒に共有し楽しんでいます。その他、個人事業を開業して自己肯定感にフォーカスした教育の実践をしたり、街を創るプロジェクトを立ち上げたりなど教育の形を模索しています。最近子どもたちが等身大でいられる第3の居場所づくりに注力しています。自分の夢や展望がよりはっきりと見え、同じように未来を創造しようとする仲間も見つかりました。止まることなく前進していきたいです。

西村 薫さん

PROFILE

参加時期：2019年度・1年生
プログラム：NICE スイス

TURNING POINT 1

1年 夏

スイスへの渡航による教育への気づきと発見

TURNING POINT 2

2年 夏

プレーパークをひとりで立ち上げ、開催を実現

TURNING POINT 3

2年 冬

個人事業の立ち上げ、自己肯定感を高める教育実践

TURNING POINT 4

3年 春

学生団体の立ち上げ、地域づくり町づくりへの意識

TURNING POINT 5

3年 夏

未来を創造する仲間との出会い、明確な将来設計

現在

3年 冬

夢の実現に向けて走り続ける、未来への前進と進化

座談会詳細は
二次元コードから
ご覧ください



かず
工学部 3年 ウガンダ

■ ボランティアに参加して得た学び

ウガンダの孤児院での経験を通して、本やインターネットの情報よりも自分が実際に現場で活動することの大切さを知りました。また、ボランティアだからこそ現地の方と馴染みやすく活動に溶け込みやすかったです。今は、「映像で考える移民・難民」のプログラムを通して、映画だからこそ作者が伝えたいメッセージの意図を考えたり学んだりしています。映画祭では、自分たちだけではなく他の人が一歩を踏み出せるように活動してきました。



かず



かおる
教育学部 3年 スイス



かおる

■ ボランティアに参加して得た学び

スイスに行って思ったのは、全然ルールがなく大人が子どもに対して「あしなさいこうしなさい」と言う瞬間がすごく少なくて、ボランティアとして行った私さえもほぼ指示が出ない環境でした。その環境で子どもたちはすごく伸び伸びしていたけど、日本教育で育ち、言われたことをやるのに慣れていて私はすごく戸惑いました。ルールがない中で自分の意志を持って行動できる子に育てるにはこのような環境が必要なのだと気づきました。その気づきが今のプレーパークへと繋がっています。



まりこ
国際教養学部 3年 フェアトレードちば



まりこ

■ ボランティアに参加して得た学び

フェアトレードという言葉自体は活動に参加する前から知っていたけれど、フェアトレードと聞いて思い浮かべるような途上国と先進国との取り引きだけではなく、地産地消を目指すローカルフェアトレードや障がい者の方々の生活向上を目指すウェルフェアトレードなど、明確な認証がなくても捉え方次第でフェアな取り引きは可能なのかと参加を通して気付かされました。そこから、本当のフェアな私たちはどんなのだろうと興味を持ち、今の研究に繋がっています。グローバルには固定のプログラムがあるけれど、そこを入口にどんな方向にでもいける「気付き」が散りばめられているので、それを自主的に回収していく楽しさも学びました。



ののこ
国際教養学部 3年 ウガンダ

■ ボランティアに参加して得た学び

ウガンダの学校で一カ月ボランティアしたことで、自分が今まで持っていたアフリカのイメージと違うことや、簡単には言い表せない複雑性みたいなものを強く実感しました。この経験を通して、もっとたくさんの場所、人、ものに出会って、色々な人のことを考えられるようになりたいと強く思うようになりました。皆さんもぜひ、最初は明確な目標がなくてもいいので、ちょっとでも心が動いたらグローバルボランティアに参加してみてください。もしかしたら思いもかけない経験ができるかもしれません。



ののこ



あつし
人文公共学府修士 1年 ウガンダ



あつし

■ 最後に言っておきたいこと

いま読んでくれている人は、みんながスーパーマンのように思えるかもしれないけれど、みんなもやっぱり最初は、小さなきっかけ、小さな「気になること」から始まって、それがその後の経験へと積み重なっているんだね。だからこそ、ボランティアは、貴重なつながりと経験を得られる最初のステップとなるのだと実感させられました。

今、海外を目指すのは僕たちにとっても手探りだし、海外へのキャリアを考えるのはなかなか難しい時期ではあるけれど、冊子を手にとってくれているひとが、思いを絶やさず、前向きな気持ちになれることを願っています。

編集後記

緊急事態宣言やまん延防止等重点措置で十分に活動できない一年でした。年度始めの学長のメッセージにあるように「今できるチャレンジをこれからも続けてください」ということはどれだけできたでしょうか。また、ボランティアを通して「人と人の繋がりを築き、どんなことから始められ、共助を当たり前にする、環境も心も豊かになれる活動」ができたでしょうか。

私自身は、このグローバルボランティアに関わる時に、自分の海外での経験を今の履修生に「是非海外で実際に活動して、引き継いでほしい」という気持ちを持っていました。しかし、今年度は国内のプログラムに限定されてしまいました。その中で少しでも自分の経験を伝えることができていたなら嬉しいです。

最後に履修者の皆さん、本活動報告書の企画作成に携わってくださった皆さん、そして佐々木綾子先生、本当にありがとうございました。そして、国際協力、海外での活動に夢や希望を抱いていた皆さん、この数年の思いをこれからの活動の糧にしてください。





CHIBA
UNIVERSITY

